

CASBEE®神戸ver.3

■使用評価マニュアル: CASBEE®神戸ver.3/CASBEE®-建築(新築) 2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE®神戸ver.3/CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)神戸市北区山田町PJ	階数	地上4F
建設地	神戸市北区山田町下谷上字けかち谷2番52地	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	132 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年10月 予定	評価の実施日	2025年8月18日
敷地面積	2,606 m ²	作成者	株式会社 福本設計 小寺 弘泰
建築面積	1,057 m ²	確認日	2025年8月28日
延床面積	3,293 m ²	確認者	株式会社 福本設計 美並 啓嗣
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	
BEE = 1.0 ★★★★☆	A: ★★★★☆ B+: ★★★☆ B: ★★☆ C: ★☆	30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ☆	
標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+		30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ☆ このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO ₂ 排出量の目安で示したものです	
2-4 中項目の評価(バーチャート)		2-3 大項目の評価(レーダーチャート)	
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0		Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.9	
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.6		LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.7	
LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1		Q のスコア= 2.8 Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.4	
3 CASBEE®神戸 の重要項目			
パリアフリー計画 Q-2/1.1.3 パリアフリー計画		建築物の耐震性等 Q-2/2.1 耐震・免震・制震・制振	
3.0		3.0	
配慮の概要		まちなみ・景観への配慮 Q-3/2. まちなみ・景観への配慮	
0			
その他の配慮事項		0	
0		0	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築(新規)
(仮称)神戸市北区山田町PJ

■使用評価マニュアル CASBEE神戸ver.3/CASBEE-建築

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE神戸ver.3/CASBEE-BD

スコアシート 実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配慮項目							
Q 建築物の環境品質							2.8
Q1 室内環境							3.0
1 音環境			2.9	0.15	2.5	1.00	2.7
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音			2.8	0.40	1.8	0.40	
1 開口部遮音性能			1.0	0.40	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能			4.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			1.0	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)			1.0	-	2.0	0.20	
1.3 吸音			3.0	0.20	3.0	0.20	
2 溫熱環境			3.0	0.35	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御			3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温			3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能			3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御			3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境			3.3	0.25	3.1	1.00	3.2
3.1 昼光利用			4.2	0.30	3.6	0.30	
1 昼光率		事務室:U=5.6%、個室:U=1.2%	5.0	0.60	4.0	0.60	
2 方位別開口			-	-	1.0	-	
3 昼光利用設備			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策			3.0	0.30	3.0	0.30	
1 昼光制御			3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境			3.4	0.25	2.7	1.00	3.0
4.1 発生源対策			3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質			3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気			3.0	0.30	2.3	0.38	
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能			1.0	-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理			5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視			1.0	-	-	-	
2 喫煙の制御		館内禁煙	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能			-	0.30	-	-	2.9
1 機能性			2.4	0.40	3.8	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	5.0	0.60	
1 広さ・収納性	個室10m ² 以上/床		1.0	-	5.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応			1.0	-	1.0	-	
3 バリアフリー計画			3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観			1.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース			2.0	-	-	-	
3 内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理			3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計			3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性			2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数			2.7	0.30	-	-	
1 転体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔			2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性			2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	-	
3 電気設備			3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備			2.0	0.20	-	-	

		2.8	0.30	2.9	1.00	2.8
3 対応性・更新性						
3.1 空間のゆとり		2.8	0.30	2.8	0.50	
1 階高のゆとり		2.0	0.60	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性		2.8	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		2.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー		-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPIm=0.78	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.78	3.4	0.50	-	-	3.4
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		-	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水	自動水栓、擬音装置付き便座	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.4	0.60	-	-	2.4
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤を使用している	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒		2.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率82%	3.7	0.33	-	-	3.7
2 地域環境への配慮		2.8	0.33	-	-	2.8
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 污水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	1.00	-	-	
2 振動		-	-	-	-	
3 悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 曜光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	